

平成29年度第2回鳥取県建設分野担い手確保・育成連携協議会協議概要



平成29年度の取組等について報告し、鳥取県経済成長創造戦略を踏まえた協議会の今後の方向性、並びに平成30年度の取組について意見交換を行った。

協議事項

1. 人材育成プログラムと今年度の取組の評価について
2. 鳥取県経済成長創造戦略と協議会の方向性について
3. 平成30年度の取組について
4. 意見交換

人材育成プログラムと平成29年度の取組の評価について

(説明)

- ・ 専門高校1年生から3年生に学年が上がっていくにつれて知識習得や技術力向上の熟度を高めていく。
- ・ インターンシップや資格取得を推進して入職意識を高めていく。
- ・ このような取り組みを通じて、人材育成プログラム自体の必要性、妥当性が確認できたと考えられる。
- ・ 人材育成プログラムを改めて作っていくことが必要。
- ・ 若手を育成できるトレーナーとしての研修も必要。
- ・ 土木施工、インフラ維持管理に関する資格を、学生を含めた枠組みで進めるとともに、地域資格の創設の検討も必要。
- ・ HPを作り、関係者のバナーを作り、情報発信をしている。
- ・ HPのアクセス数、Facebookのリサーチ数とも順調に増えている。

(意見等)

- ・ 学校現場として協議会の取組は、学校にはないもの、外のいろんな専門的なものを経験でき有意義で、感謝している。
- ・ 反面、様々な要求が来て手一杯な状況もある。
- ・ 教員の働き方改革も言われており、学校現場と連携して取組を進めていくのが大切。
- ・ 建設系専門高校の定員を増やすことは難しい。
- ・ 中学生が減ってきており、土木、建築それぞれ単独学科があるのが理想だが、単独学科を維持するのが難しい。
- ・ 平成37年度までは、生徒減少に対しては学校を維持しながら学級減で対応していく方針である。
- ・ 技術者と技能労働者が混在している業界だが、そのどちらの方をターゲットにしているのかが明確になっていない。
- ・ 今年度は1年目であるが、1年2年3年生が、最終年度になってどうだというのが大事。

- 手ごたえがあるのならば、今の人材育成プログラムで進め、技術者、技能者、いろんな職種が連携して、ものづくりができ、プライドを持ってできる仕事だということを伝える必要がある。
- 生徒だけでなく保護者や先生方の建設産業の認識も不足している。

鳥取県経済成長創造戦略と協議会の方向性及び平成30年度の取組について

(説明)

- 共通目標として、建設産業が社会を支えているというのを再認識していただくとともに、対外的に情報発信をしていく必要がある。
- 各地域での災害復旧、除雪等ができる建設産業の体制構築、維持管理という観点でストックマネジメントの方策を支える建設産業の体制構築の2つの目標設定をし、その中で地域のワーキングだとか、地域の高校と業界のペアリングを図っていきたい。
- 試行モデルとして、西部7町村での展開(国土強靱化地域計画策定の連携スキームの活用)、地域の建設業協会と高校の連携による人材の確保・育成を考えている。
- H30年度の取組は、今年度の成果を受けて、また課題をいただきながら、高校、大学、小中学校へリニューアルしつつ行う。

(意見等)

- 技能労働者の実態は建設業協会ではわからない。技能労働者にメスを入れないと業界の担い手は確保できない。
- 技能労働者の処遇改善をどうするか、月給制でない日給制の人が多。そこを改善しないと、建設業に入る人は減る。
- いかに処遇改善するか。そのためにキャリアアップシステムを立ち上げて、全国的な取組がされる。⇒新3Kに繋がる。
- 建設産業による、安全安心な社会基盤と交通物流インフラがあるからこそ経済成長が実現できる。
- 反面、鳥取県の経済成長戦略の中で建設産業を活かすには、インフラ整備に必要な産業界をどういう風に成長させていくのかということが重要ではないか。
- 高等学校側からの改善点、要望等の中に、業績が公共工事に左右されることが気になる。
- 県の経済戦略として、こういう方向で考えているという話ができれば、将来性の不安も取り除かれるのではないか。
- 普通科高校のインターンシップ、中学生の職場体験学習の受入れ先として、建設業協会、測量設計業協会をこの協議会を通して紹介する取組をお願いしたい。
- 技能労働者のイメージアップについて、イメージを払拭するため、よい写真を作業ごとに撮って、HPにアップする等、現場はこうだというのがあっても良い。

まとめ

- 保護者も先生の方々も建設産業について認識が薄い。建設産業の魅力をどういう形でPRしていくのか検討、工夫が必要である。(全産業のうち建設産業の位置づけの示し方等)
- 体系的に建設産業とはこういうものだということを、プログラムの中で整理していく必要がある。
- 協議会の方向性は、ワーキングをつくって、その中で検討し、議論し協議会に諮っていく形とする。
- 技能士の件は、いろんな情報を収集しながら議論を進めていかないといけない。基本的には技能士は一人親方に近いもので、技能士会、建設業協会と状況情報を収集しながら事務局で整理していきたい。
- 平成30年度の取組について、委員の皆様からの意見を取り入れながら整理して、3月末の協議会で、事業計画、収支予算等について説明したい。